別添

第 35 回椹野川河口域・干潟自然再生協議会会議概要

１　日　時

令和 6 年 2 月 17 日(土)　9:30～12:00

２　場　所

山口大学 常盤キャンパス D 講義棟 D21 教室(宇部市常盤台２丁目 16-１)
※オンラインとのハイブリッド開催

３　主　催

椹野川河口域・干潟自然再生協議会

４　出席者

24 名(現地委員 14 名、ウェブ委員 6 名、委員外 4 名)

５　内　容

（１）開会挨拶要旨　～関根会長～

・協議会は、2004 年度（平成 16 年度）から数えてちょうど 20 年目の節目。協議会の会議の開催も通算 35 回目となった。
・長い期間、活発に活動できたのは、山口湾の里海を再生しようという皆様の強い思いの賜物であり、非常にうれしく、また感謝申し上げる。
・今年度は現場でのイベントなど活動を再開したが、久しぶりの活動でも参加者が集まり実施できたことは、非常に良かったと感じている。
・本日は、事務局から今年度の協議会の活動内容、来年度の計画、第 11 期委員の公募実施に関する案内などがある。ぜひとも次期も委員を続けていただければ。
・また、委員の方々の活動実績や調査研究についても発表いただくほか、寄附付き商品の取組についても提案がある。
・さらに、今年度は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社山口支店様から本協議会に寄附をいただけることになった。

（２）議事等

①　2023 年度活動概要　～資料 1：事務局～

・2023 年度の椹野川河口域・干潟自然再生協議会の活動状況の概要を説明した。
・コロナ禍で縮小・中止した活動も順次再開。一般参加者も一定数集まった。
・新たな話題として、環境省の行う「閉鎖性海域における藻場・干潟のブルーカーボン機能把握調査」の対象海域に椹野川河口・山口湾が選定された。
（委員）カブトガニ幼生生息調査について、参加者の偏りや調査手法などを考慮して平均化した上で傾向を見れると良いのでは。

②　活動報告・調査研究　～資料 2～

ア　令和 5 年度ブルーカーボンＷＧの取り組み報告

～山口大学大学院 創成科学研究科　教授　山本 浩一～

・イベント時に実施したアマモ再生に係るアンケートでは、アマモについて好意的なイメージを持っている人が多く、ボランティア協力などもしてみたいとの回答が多かった。
・６月にアマモ見学会、７月に漁業者懇談会を実施した。
・泥質干潟及び砂泥質干潟におけるアマモ埋設調査を実施した。砂泥質干潟については、９月に埋設実施。栄養塩供給への寄与について観察していく。
・環境省の行う「閉鎖性海域における藻場・干潟のブルーカーボン機能把握調査」の対象海域に椹野川河口・山口湾が選定された。調査結果は、本ＷＧにも提供される予定のため、今後の活動の参考としたい。

（委員）クレジット化の見込みと算定方法は？
→　近年大きく減少したが、ポテンシャルはある。天然アマモ場の算定方法は検討段階だが、まずは実情の把握とベースラインの設定が重要。
（委員）海水温が高いと激減したり多年生が単年生になったりした事例がある。

イ　山口県を含む広島湾の干潟におけるアサリ採集状況 2023 - 市民の協力による動向調査の紹介（附：小瀬川河口における長期動向（2007-2023 年）の概要）
～水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部
主任研究員　重田 利拓～
・広島湾の干潟６地点における、2023 年春のアサリの採集状況を調査した。
・結果として、小瀬川以北の大野瀬戸周辺の広島湾北西部のみ比較的良好な状況。
・2023 年比較的多く採れている小瀬川河口における長期変動を見ると、アサリが採れなくなった 2009 年以降、回復と減少の周期がある。
・山口湾においても類似の傾向があり、小瀬川の周期との同調性を注視している。
（委員）小瀬川河口と山口湾のアサリ長期変動の類似の要因は何が考えられるか。
→　小瀬川は被覆網もなくアサリが採れている状況。
長期変動の類似は偶然かもしれないが、関連があるとすれば、大きな環境変化などが影響しているのではないか。要因を追究してみたいと思う。

ウ　網袋方式を用いた南潟のアサリの保護・育成の実績について
～環境保健センター 環境科学部　専門研究員　元永 直耕～
・アサリモニタリング調査について、2018 年度から減少傾向が続いている。
・アサリの分布にも変化があり、被覆網を設置していても増えない地点もある。
・被覆網管理の負担を軽減し、より効率的にアサリを保護・育成するため、網袋を用いた手法の拡大試験を実施した。
・４月の干潟再生活動で稚貝採取・網袋設置、９月に網袋開封・被覆網下へ移設。
・一部網袋の破損はあったが、推計 12,000 個のアサリを育成し、被覆網へ移設できた。今後生育状況の把握・評価を行い、より効率的な取組はつなげたい。
（委員）アサリの分布について、ＤＬの変化による影響も考えられるため、それも含めて検討しては。
（委員）山口大学で今年度ＤＬ測定している。参考にしてもらえれば。

③　2024 年度の活動について　～資料 3：事務局　柿薗、環境保健センター　元永～
・年間活動計画及び 2024 年 4 月 27 日（土）に実施予定の椹野川河口干潟再生活動 2024 の実施概要を説明した。
・ふしの干潟いきもの募金の現状及び山口湾あさり応援プロジェクト（寄附付き商品開発）の提案内容について、説明した。

（３）第 11 期協議会委員の募集　～資料 4：事務局　柿薗～
・今年度で第 10 期が任期満了となることから、第 11 期委員の募集を行う。
・3 月 29 日（金）までに応募いただきたい。

（４）あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からの寄附金について　～資料 5：事務局　柿薗～
・今年度 10 万円の寄附をいただけることとなった。
・2 月 21 日（水）に、県庁において寄附金贈呈式を行う。
・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社には、本協議会活動へのボランティアとしても協力いただいている。

（５）その他、委員からの意見等
・社会的な動きも踏まえ、自然共生サイトへの登録を検討してはどうか。
・地元企業へのＰＲや 20 周年記念のイベントなどができると良い。